

平成 22 年度 香川県産米生産推進研修会 資料

～とりもどそう！「さぬき米」の名声!!～

平成 23 年 3 月 25 日 (金)

香 川 県
香 川 県 水 田 農 業 振 興 協 議 会

平成 22 年度 香川県産米生産推進研修会
～ とりもどそう! 「さぬき米」 の名声!! ～ 次第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 研 修

1) 県産米の生産振興について

(1) 平成 23 年度水稻生産方針

(香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 眞鍋 雄二)

(2) 水稻品質向上のための栽培技術

(香川県 農政水産部 農業試験場 主任研究員 安田 英樹)

(3) 県産米の販売方針 ～ 「香系 8 号」 の導入を契機に～

(J A 香川県 営農部 農産課 課長 吉本 康)

2) 講 演

水稻新品種「さがびより」の取り組みについて

(講師 佐賀県 生産振興部 農産課 副課長 ^{ながふち かずひろ} 永渕 和浩氏)

3) 質疑応答

4. 閉 会

平成 22 年度 香川県産米生産推進研修会 開催要領

～ とりもどそう! 「さぬき米」 の名声!! ～

1. 目 的

国は、水田を最大限に活用し食料自給率向上を図るため、平成 23 年度から水稲と麦、大豆、飼料用米・米粉用米等の戦略作物等を始めとする土地利用型作物の生産コスト低減に寄与するための農業者戸別所得補償制度を本格実施することとしている。

一方、本県の米については、全国的な米の消費量低迷と生産過剰の中、需要量が確保できず生産数量目標の配分が減少しており、今後は、需要量を維持拡大するとともに、水稲作付意向調査に沿った作付面積の維持と不作付地解消の手段として飼料用米等の新規需要米の取組も推進する必要がある。

そこで、新規需要米も含めた本県の今後の生産振興方針や他県の取組等について提供し、今後の「売れる米づくり」のための活動を推進する。

2. 主 催 香川県、香川県水田農業振興協議会

共 催 香川県農業協同組合中央会、香川県農業協同組合

3. 日 時 平成 23 年 3 月 25 日 (金) 13:30～16:15

場 所 「丸亀市綾歌総合文化会館 アイレックス」

丸亀市綾歌町栗熊西 1680 番地 TEL 0877-86-6800 (代)

4. 研修内容等

時 間

1) 開 会

13:30

2) 県産米の生産振興について

(1) 平成 23 年度水稲生産方針

13:40

(香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 眞鍋 雄二)

(2) 水稲品質向上のための栽培技術

13:50

(香川県 農政水産部 農業試験場 主任研究員 安田 英樹)

(3) 県産米の販売方針

14:10

～ 「香系 8 号」 の導入を契機に～

(J A 香川県 営農部 農産課 課長 吉本 康)

休

憩

14:40

3) 講 演

14:50

水稲新品種「さがびより」の取り組みについて

(講師 佐賀県 生産振興部 農産課 副課長 ^{ながふち かずひろ} 永瀬 和浩氏)

4) 質疑応答

15:50

5) 閉 会

16:15

5. 参集範囲 (約 400 名程度)

米麦生産者・団体、実需者団体、地域水田農業推進協議会、市町、香川県農業共済組合連合会、農業共済組合、香川農政事務所、香川県農業会議、香川農南農業協同組合、香川県農業協同組合、香川県農業協同組合中央会、香川県

目 次

1. 県産米の生産振興について

1) 平成 23 年度水稲生産方針 * * * * * 1

2) 水稲品質向上のための栽培技術 * * * * * 4

3) 県産米の販売方針

～「香系 8 号」の導入を契機に～ * * * * * 7

2. 講 演

水稲新品種「さがびより」の取り組みについて * * * * * 14

平成 23 年度水稻生産方針

香川県農政水産部農業生産流通課

1. 基本方針

平成 16 年度から実施されている米政策改革の下では、米の生産量に対する需要量を重点に生産数量目標の配分が行われていることから、需要を維持拡大していくための「売れる米づくり」が重要である。

平成 23 年度の本県への生産数量目標の配分は大きく減少しており、今後の生産数量目標の減少を防ぐためにも、需要に即した計画的な生産と品質や食味の改善、販売促進を一体的に図ることが必要である。

一方、平成 23 年度も継続されている農業者戸別所得補償制度は、米については生産にかかる恒常的な赤字部分の解消が目的であり、米の所得向上のためには、この事業を活用しつつ、地域や産地の状況に応じた「売れる米づくり」の方法を検討し、講じていく必要がある。

併せて、自給力向上と生産数量目標の超過部分や不作付地の解消のために、地域の実情に応じて、飼料用米や米粉用米といった新規需要米の作付推進に取り組むこととする。

2. 現状と課題

1) 品種別生産状況と今後の方針

コシヒカリ：県内販売割合 93%。需要量と生産量がほぼ同等のため、面積は現状維持。品質低下が著しく、需要量維持のために改善が必要。

はえぬき：県内販売割合 84%。地元スーパーでの一極集中的販売要素が強い。施設の円滑な運営上重要な位置付けで、作付面積の維持が必要。

ヒノヒカリ：県外販売割合 63%。卸業者には好評であるが、温暖化による品質低下が顕著である。作付拡大傾向にあるが、施設荷受や育苗体制が限界に達しており、作期分散可能な品種への切り替えが必要。

オオセト：県外販売割合 84%。灘と伏見の蔵元から安定供給が求められ、固定需要があったが、酒の販売状況が不振であることから、作付計画の見直しが必要となっている。

※うるち米全体の県内販売割合 59%

表 品種別作付実績及び計画

品 種 名	23年産計画		22年産実績	
	面積 (ha)	構成比 (%)	面積 (ha)	構成比 (%)
コシヒカリ	5,650	38.3	5,680	37.1
はえぬき	780	5.3	790	5.2
オオセト	400	2.7	720	4.7
ヒノヒカリ	6,980	47.4	6,970	45.6
その他	650	4.4	840	5.5
(うるち計)	14,460	98.1	15,000	98
もち	280	1.9	300	2
合 計	14,740	100	15,300	100

2) 水稻栽培の現状と課題

(1) 品質低下の要因

水稻の品質は、「1等米比率」で評価されるが、県内で生産されている水稻の1等米比率は全国的に温暖化が進んでいる中でも低位である。その要因として考えられることは、①品質確保のためには非常に厳しい気象条件、②兼業化、高齢化の進展、③厳しい水事情と野菜栽培重点の登熟期の水管理 などがある。

(2) 品質向上のための対策

県では、従来からJAや農業改良普及センター、農業試験場等と連携し、高温条件下で品質低下を防ぐための栽培技術について、周知、指導を行ってきた。

その栽培技術内容の代表的な項目は以下のとおりである。

- ①田植え誘導マップによる田植時期の適正化。
- ②登熟期の早期落水の防止や、間断灌水の実施。
- ③水稻の成熟状況に応じた適期収穫の実施。

現在水稻栽培面積の46%を占める「ヒノヒカリ」については、全国的にも栽培面積が大きく、良食味であることから、卸業者等の評価が高い品種であるが、登熟期の高温の影響を受けやすく、品質低下を招きやすい。

そこで、県では平成22年11月に、「ヒノヒカリ」より高温登熟性に優れる「香系8号」を新たに奨励品種とした。

(3) 「香系8号」の生産振興

「香系8号」の生産振興については、JA香川県が事務局の「さぬき米復活プロジェクト」を中心に県の各機関や米卸業者との協議をもとに検討し、その結果を諮問機関である「かがわ農産物流通消費推進協議会」で諮ることとしている。

水稻の作付計画は、栽培面だけでなく、販売面の見通しも踏まえて検討する必要がある。現在、平成25年度からの一般栽培に向け、農業試験場で種子を増殖中であるため、平成23年度と24年度は、種子が確保できる範囲で、卸業者や一般消費者の評価を確認するための試験販売に向けた栽培を行う予定である。

この栽培については、JAと県が協議して決定した県内13ヶ所の生産者のほ場で行い、試験栽培と併せて栽培基準設定のための展示ほを設置する予定である。

なお、「香系8号」については、4月1日から「かがわ農産物流通消費推進協議会」により、品種名、キャッチコピー、販売用精米袋にも利用するロゴマークの応募を受け付ける予定である。

3. 新規需要米の取り組み

国が目指す自給力向上と水田の有効活用のため、特に需要が見込める飼料用米について、重点的に作付推進を図る。

飼料用米を含む新規需要米は、実勢価格が非常に安価であるため、農業者戸別所得補償制度の水田活用の所得補償交付金（戦略作物助成）の80,000円/10aを受け取るための手続が必要である。そのため、新規に取り組みを希望する場合は、必ず地域水田農業推進協議会事務局等に申し出をし、手続等の相談が必要となるので注意する。

なお、取り組みには、飼料用米生産者が直接実需者と契約をする方法と、全てJAを通す方法の2つの取り組み方法があるので、地域の状況に応じて対応をする。

平成23年3月25日

水稲品質向上のための栽培技術

香川県農業試験場

1. 平成22年産米の状況

①平成22年気象状況

②平成22年産米検査実績

2. 水稲品質向上のための栽培技術

①播種期・移植期を遅らせる

②適正な水管理

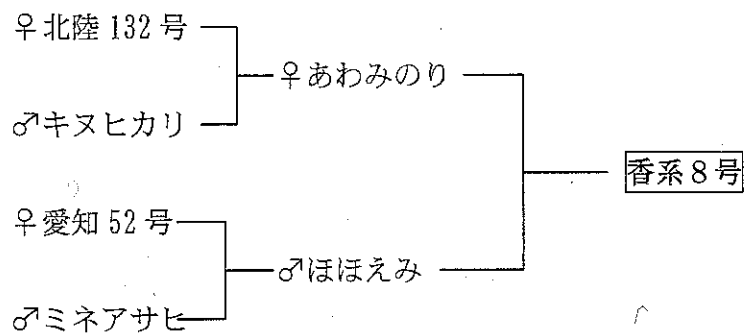
③適切な肥培管理

④適切な害虫防除

⑤適期刈り取り

3. 新奨励品種「香系8号」の特性及び栽培基準

①来歴



②特性の概要（「ヒノヒカリ」と比較して）

- ・ 出穂期、成熟期ともほぼ同じで、中生の中である。
- ・ 稈長は短く、穂長はやや長い。
- ・ 分げつは旺盛であるが、有効茎歩合が低い。このため、下葉枯れの発生が多い。
- ・ 止葉はやや立ち、草姿は良好である。
- ・ 稈質はやや柔らかいが、耐倒伏性は同程度である。
- ・ 収量は同等かわずかに少ない。千粒重はやや軽い。
- ・ 粒厚は、比較的厚い粒厚の分布割合が高く、揃っている。
- ・ 粒着がやや疎である。
- ・ 整粒歩合は高く、乳白の発生が少なく、外観品質はやや優れ、高温登熟性に優れている。
- ・ 食味は粘りがあり、同等の良食味である。炊飯時の色が白く明るい。
- ・ いもち病にやや弱い。

③試験成績

表1 生育調査結果

品系名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	紋枯病 (0-5)	倒伏 (0-5)	全重 (kg/a)	精玄米重 (kg/a)	対比 (%)	容積重 (g/L)	千粒重 (g)
香系8号	8/27	10/8	74.9	20.7	372	1.1	0.0	152	55.6	99	789	22.5
ヒノヒカリ	8/27	10/9	79.2	19.7	370	1.1	0.0	155	56.4	(100)	785	22.9

注1)農業試験場内試験結果3年平均(H20~22)、紋枯病・倒伏は0(無)~5(甚)の6段階評価。

注2)精玄米重・千粒重は1.8mmの篩で調製し、水分14.5%に換算した値とした。

表2 品質食味調査結果

品系名	外観品質 検査等級 (1-9)	穀粒判別器(重量%)					食味計		
		整粒 (%)	未熟粒 (%)	乳白	基部	腹白	死米 (%)	玄米蛋白 (%)	スコア (点)
香系8号	4.0	76.7	20.7	2.6	1.0	1.2	0.6	7.4	75
ヒノヒカリ	4.9	70.5	24.7	2.8	1.3	2.2	0.7	7.7	73

注1)外観品質は登録検査機関において、1(1等上)~9(3等下)の9段階で評価。

注2)穀粒判別器は静岡精機製ES-1000、食味計は同GS-2000による。

④栽培基準

栽培適地	海岸部や秋落ち地帯を除く、平野部から内陸部
移植時期	6月20~25日頃
栽植密度	50~60株/坪(株間22~18cm)程度
施肥設計	速効性肥料:5.0(基肥)-2.5(出穂18日前)-1.5(出穂10日前)
水管理	極端な中干しは行わず、収穫時期の早期落水は行わない。
病虫害防除	いもち病・紋枯病・コブノメイガ・カメムシ類の適期防除に努める。
節目	1.85mm
収穫適期	出穂後日数:38~45日、積算気温:1,000~1,100℃
乾燥調整	過乾燥に注意し、適正な籾水分(14.5~15.0%)に仕上げる。

県産米の販売方針

～「香系8号」の導入を契機に～

JA香川県営農部農産課

吉本 康

平成22年産米品質概況

平成22年産主要銘柄の集荷実績

単位:トン、%

品種名	22年産					21年産	前年対比	
	1等	2等	3等	計①	1等 比率	計②	①÷②	①-②
コシヒカリ	152	7,944	1,736	9,832	1.5	8,708	112.9	+1,124
はえぬき	77	1,162	815	2,054	3.7	2,049	100.3	+5
ヒノヒカリ	238	16,464	1,166	17,868	1.3	17,898	99.8	▲30
オオセト	0	2,614	620	3,234	0.0	3,032	106.7	+202
【集荷計】	523	29,344	4,403	34,269	1.5	32,631	105.0	+1,638

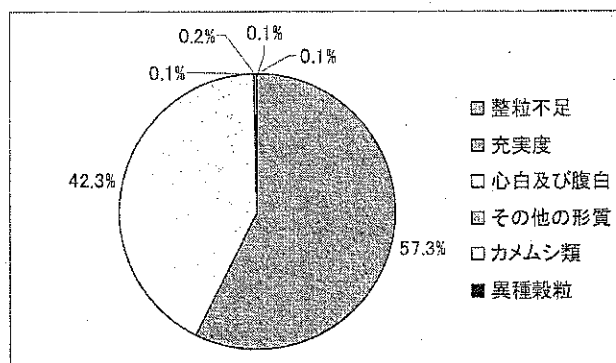
【集荷計】には、上記以外の「うるち」、「もち」を含む。

※水稲うるち玄米検査1等比率 全国平均は61.7% (平成23年1月末現在)

22年産 2等米の落等要因

2月末検査分まで

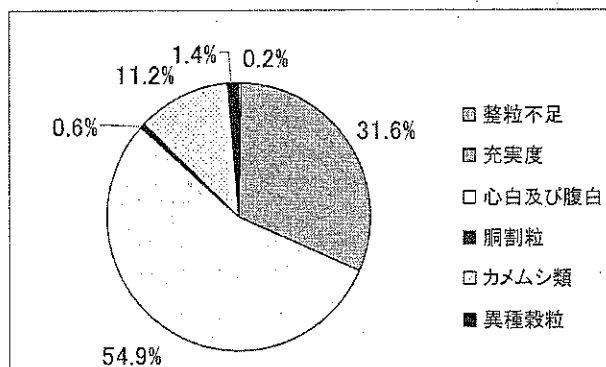
検査数量 (トン)	整粒不足	形質			被害粒		着色粒		異種穀粒
		充実度	心白・腹白	その他	胴割粒	その他	カメムシ類	その他	
26,259	0.1%	57.3%	42.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%



22年産 3等米の落等要因

2月末検査分まで

検査数量 (トン)	整粒不足	形質			被害粒		着色粒		異種穀粒
		充実度	心白・腹白	その他	胴割粒	その他	カメムシ類	その他	
2,445	0.2%	31.6%	54.9%	0.0%	0.6%	0.0%	11.2%	0.0%	1.4%

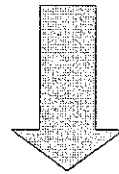


香川県産米品質向上対策

現状の県産米品質等評価

生産者意識(付加価値) ≠ 消費者満足(品質・食味)

1等米比率
食味ランキング
実需者の精米歩留



温暖化対応品種の導入
「香系8号」の導入を機に

「香系8号」の生産と販売①

「香系8号」の導入

品質向上の起爆剤

意識改革

⇒ 「香系8号」以外の品種も含めた
全体の底上げ

生産面積

23年産・24年産は試験栽培

本格導入は25年産から

27年産で目標1,000ha

「香系8号」の生産と販売②

生産方針

生産者手取向上を目指しブランド化

1等米比率向上と品質安定化

栽培基準の確立・統一と徹底

集荷方針

品質・食味等による区分荷受

栽培基準に沿った買取販売

生産者メリットの明確化

「香系8号」の生産と販売③

栽培基準の策定

・栽培適地

・移植時期

・施肥設計

・水管理

・病虫害防除

・収穫適期

・乾燥調製

・篩目

「香系8号」の生産と販売④

買取販売の実施

栽培基準に沿った買取

○基本価格(等級ごと)

○加算の設定

・食味加算 → 食味スコア 75以上

・タンパク質含有率加算

→ タンパク質含有率 7.5%以下

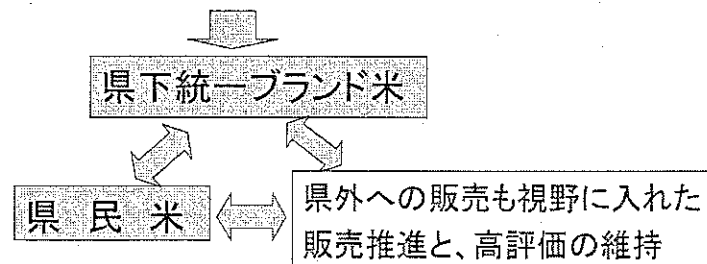
・篩目加算 → 篩目1.85mmの使用

「香系8号」の生産と販売⑤

販売方針

播種前契約の導入(数量と基準価格)

香川県の主食用オリジナル品種



一般公募による品種のネーミング(公募)

一般公募によるキャッチコピー、精米袋用ロゴマーク(公募)

一般家庭 ⇒ 県内の百貨店・量販店・小売店など

業務用途 ⇒ 県内公共機関・コンビニ店(日配食品)

「香系8号」の導入により期待される効果

等級を含む品質の向上

生産農家所得の向上

米販売業者等の評価の向上

生産数量目標(目標面積)の維持(「売れる米づくり」)

「コシヒカリ」など早生系品種の分散

作付面積拡大 麦との二毛作

CE荷受量の平準化(荷受時の混雑や待ち時間短縮化)

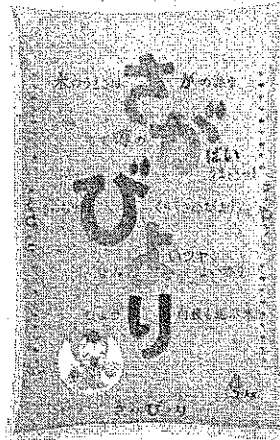
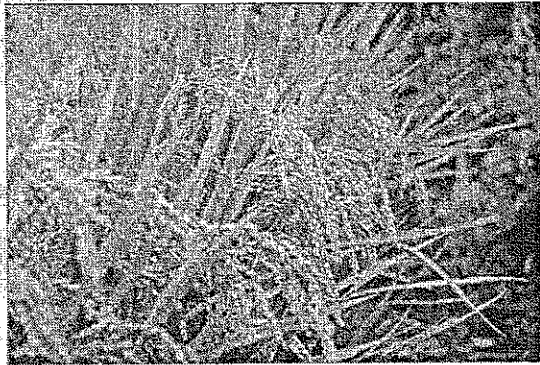
適期刈取・適期荷受 品質向上

CE利用率向上

品質・食味基準を満たしたブランド米の確立

JA集荷率の向上

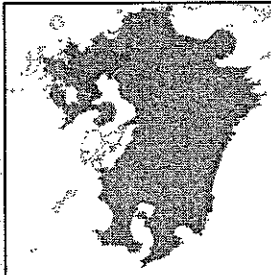
水稻新品種「さがびより」 の取り組みについて



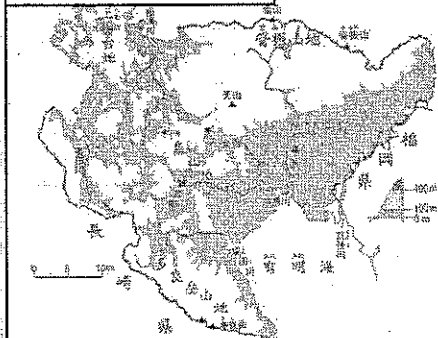
佐賀県生産振興部
農産課

香川県米生産振興大会 2011/3/25

佐賀県の特長



有明海に面した極めて平坦な佐賀平野は、
佐賀県の面積の約1/3を占める。
整備された用水路(クリーク)網が大きな
特長となっており、米・麦・大豆のみならず、
タマネギ、レンコン、イチゴなどの生産も盛ん
な農業地帯である。



香川県米生産振興大会 2011/3/25

佐賀県の水田農業の現状

佐賀県の水田農業は、整備された圃場や共同乾燥調製施設などを有効に活用しながら、夏作に米、大豆、冬作に麦、玉ねぎを中心に、田畑輪換方式(ブロックローテーション)による効率的な営農を行っている。本県は、集落営農組織の割合が高いことが特長である。

作物	生産量(トン)	全国シェア	集落営農	戸数
水稲計	141,800	1.7%	認定農業者	662
うるち	104,200	1.3%	集落営農組織	480
もち	37,600	12.9%		
二条大麦	31,400	27.2%		
小麦	39,400	5.8%		
大豆	21,000	9.1%		

佐賀県における水田経営所得安定対策加入申請状況(H22)

米の約7割、麦・大豆は、
ほぼ全てをカバー

佐賀県における水稲・麦類・大豆の生産量(H21)

香川県米生産振興大会 2011/3/25

さがびよりの導入に至る経緯

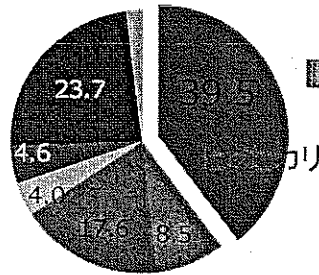


図. 佐賀県における水稲の品種構成(%) (平成19年)

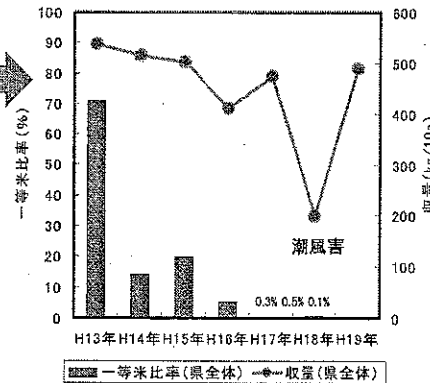


図. 「ヒノヒカリ」の近年の収量と一等米比率(農水省公表)

主力品種「ヒノヒカリ」は、登熟期の高温に弱く、収量・品質が著しく低下。

→既存品種(ヒノヒカリ)における栽培技術の再構築か?
それとも、新品種の導入か?

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成19年産(猛暑年)における取り組み(1)

①ヒノヒカリ品質向上プロジェクト

農業試験研究センターや
農業改良普及センターと連携し、

- ・移植時期
 - ・施肥(穂肥における緩効性肥料の利用)
 - ・水管理
- などを組み合わせた品質向上試験を実施

著しい改善効果なし

さらに現場では、猛暑であったことから
ヒノヒカリの収量・品質が大きな問題となる。

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成19年産(猛暑年)における取り組み(2)

②有望系統「佐賀37号」(さがびより) 現地適応性試験

♀天使の詩
(県育成)

♂あいちの
かおりSBL

佐賀37号
(さがびより)

交配年:平成10年

育種目標:中生・良質・良食味
高温適応性

高温障害のみられる平坦部
(県内二カ所)で実施

収量・品質ともヒノヒカリを
大きく上回るなど結果良好

実需者(米卸)や消費者(佐賀米
販売協力店の顧客へのアンケート
など)の評価も良好

「佐賀37号」の導入に向けた取組を加速

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成20年産における取り組み

「佐賀37号」現地適応性試験を県域(県内15カ所)に拡大するとともに、実需者などへの評価も実施

農業試験研究センターの原種は、必要分を除き、全て次年産に向けた採種用として緊急増殖ほを設置、種子68t(1,700ha分)を確保

前年同様、結果良好

奨励品種審査会

「佐賀37号」を奨励品種に採用(平成21年3月)

「佐賀37号(さがびより)」を本格導入へ

香川県米生産振興大会 2011/3/25

さがびよりの品種名称について

名称に込めた「思い」

佐賀県の水づくりは、異なる気候条件に合わせた水管理と、豊富な水資源、豊かな水質、豊かな自然環境とが大きな特徴です。「佐賀37号」は、この豊かな自然環境の中で、

気候が大きく変動する中で、雨が降らなったり、強い風が吹いたり、日照不足に陥り、目標の米を収穫する状況は、実需者で悩まされた。そんな「思い」を込めて、「佐賀37号」と名づけました。

H20.10.27
農水省への
品種登録出願

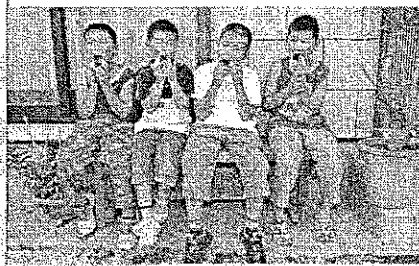
H21.4.6
農水省による
出願公表

同日午後
知事の記者
発表

香川県米生産振興大会 2011/3/25

さがびよりの特長

- 特長1. つやがよい
- 特長2. 粒が大きく、しっかり
- 特長3. 食感ほもっちり
- 特長4. 甘み、香りがよい
- 特長5. 時間がたってもおいしい
おこげも、お弁当にピッタリです。



香川県米生産振興大会 2011/9/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(1)

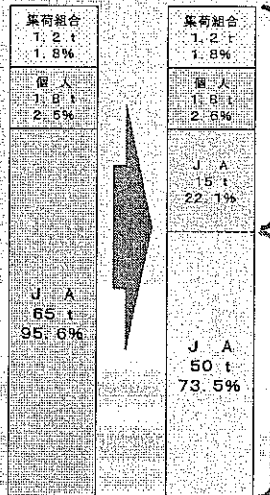
市場評価を高め、「さがびより」を『佐賀を代表する米』(県民米)に育て上げるための初年目の課題

- ①出荷初年目がその後の銘柄確立に大きな影響を及ぼす
→高品質安定生産、安定供給が必要不可欠
- ②生産者の作付要望を全て満たすだけの種子量はない
→作付地域をどう集約するか?
- ③次年産からの作付け拡大に対応できるような生産体制作りも進めておく必要がある

米の販売環境が非常に厳しい中、全国的に新品種が乱立する戦国時代
北海道「ゆめぴりか」山形県「つや姫」福岡県「元気つくし」
長崎県「にこまる」熊本県「くまさんの力」etc.....

香川県米生産振興大会 2011/9/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(2)
作付方針と種子の分配、作付地域の集約



原則、次年度に向けた試作
→消費者への試食会、保有米など
●配布上限量
個人販売農家: 10kg
JA(共乾): 100kg

銘柄確立のための濃密指導地区
→出荷販売用は、共乾施設に限定

佐賀の強み『共同乾燥調製施設』を活かした品質にバラツキのない均質な商品の通年安定供給を目指す

さがびより種子68tを20年産ヒノヒカリの生産シェアで按分

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(3)
濃密指導地区の作付条件

●濃密指導地区の作付条件

- ①作付農家は登録制→誓約書の取り交わし
- ②圃場には標柱を立てること
- ③県の栽培指針を遵守すること
- ④栽培講習会・互評会には必ず参加すること
- ⑤20年度の現地試験結果が適用できる地域であること

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(4)
登録制のための栽培誓約書

栽培誓約書・登録圃場明細書				
平成 年産「さがびより」栽培に関する栽培誓約書				
1、「さがびより」栽培に関する栽培誓約書				
①「さがびより」に関する研修会・互評会には必ず出席します。				
②県の栽培指針に基づき栽培を実施します。				
③栽培圃場を明確にします。				
④JAの栽培履歴に記載します				
⑤JAの農業適正規範（GAP）に記載します				
⑥全量JA出荷を行います。				
⑦「県民米・県産米」の生産に真摯に取り組みます。				
以上の条件を遵守し、栽培に取り組みます。				
2、作付圃場明細書				
支部名	集落名	圃場地番	作付面積 (㎡)	摘要
合計				
平成	年	月	日	
住所:				
氏名:				

21年度
誓約書
様式
(JAさが)

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(5)
濃密指導地区の概要

- 共同乾燥調製施設数:20施設
- 生産者数:1,867名
- 作付面積:1,163ha(出荷販売用)
◇試作も含めた総作付面積:1,520ha
- 作付筆数:4,590筆

本県の新品種
としては
異例の規模で
スタート

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産（導入初年目）における取り組み（6）
濃密指導地区への指導環境の整備

①条件整備

- ・ 作付圃場に一般標柱
- ・ 共乾ごとに基準田の設置
（基準田標柱）
- ・ 穂肥診断旗や適期刈取旗

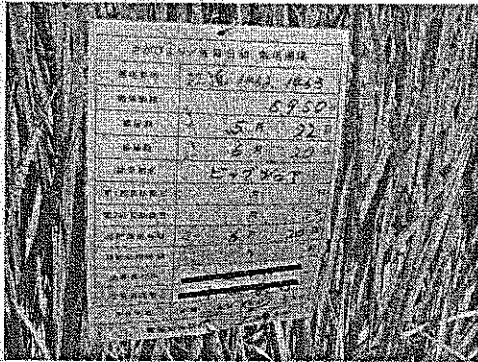
さかの米・麦・大豆
競争力強化対策事業
（H21～）による経費
の助成（1/2以内）

②指導体制の整備

- ・ 県段階に「技術指導チーム」を設置

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産（導入初年目）における取り組み（7）
栽培圃場明確化のための一般標柱



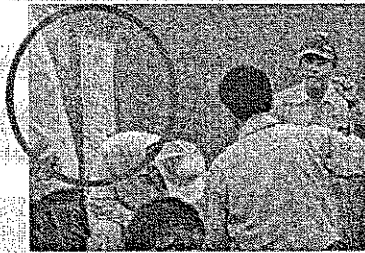
一目で「さがびより」栽培圃場とわかり、生産者名を明記しているため、指導が行き届くとともに、生産者の意識醸成にも役立った。

生産者氏名や管理履歴に加え、指導上必要な「前作(冬作)」「前々作(今年の夏作)」も記入

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(8) 栽培指導のための基準田の設置

濃密指導を行う共乾1施設あたり2カ所程度の基準田を設置。栽培指導を行うための圃場として活用したり、産地を代表する圃場として生産物の分析を行い、次年度以降の生産指導にも活用

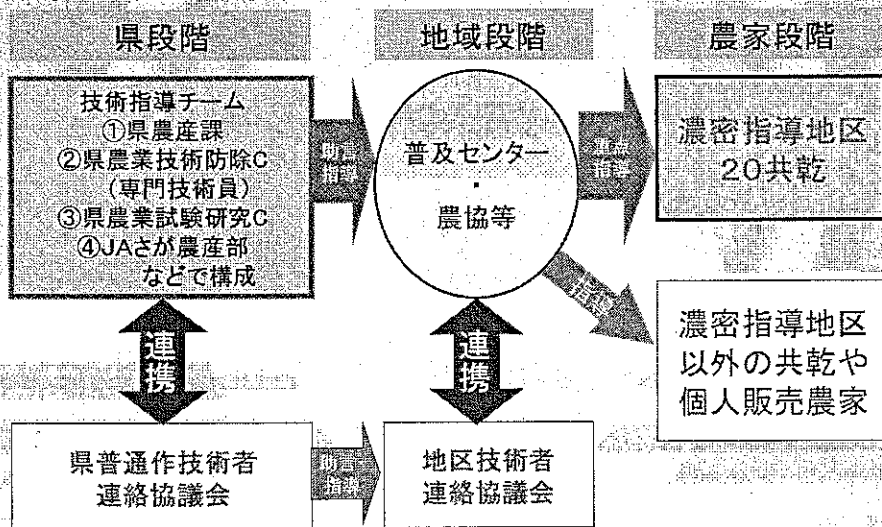


項目	作業日	使用資材名	使用量	希釈倍率	散布量
播種日	月 日 ~ 月 日		140%		
田植え日	月 日 ~ 月 日				
出穂期	月 日 ~ 月 日				
収穫日	月 日 ~ 月 日				
育苗肥料	月 日 ~ 月 日		20%		
土作り資材	月 日 ~ 月 日		140%		
完熟	月 日 ~ 月 日		140%		
中干し期間	月 日 ~ 月 日				
種肥	月 日 ~ 月 日		140%		
その他資材	月 日 ~ 月 日				
土壌処理剤	月 日 ~ 月 日		20%		
種子消毒	月 日 ~ 月 日				
播種時 処理剤	月 日 ~ 月 日		20%		
播種時 処理剤	月 日 ~ 月 日		20%		
播種薬剤	月 日 ~ 月 日		20%		
播種薬剤	月 日 ~ 月 日		20%		
除草剤	月 日 ~ 月 日		140%		
除草剤	月 日 ~ 月 日		140%		
本田防除	月 日 ~ 月 日				
本田防除	月 日 ~ 月 日				
無人ヘリ 防除	月 日 ~ 月 日				
無人ヘリ 防除	月 日 ~ 月 日				

基準田に設置した看板

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(9) 指導体制の整備(県段階に技術指導チームの設置)



香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(10)
技術指導チームによる地域と連携した指導の徹底

- さがびより栽培のポイントの発信
ver.1~4
- 新聞紙面を活用した栽培のポイントの
周知(さがびより通信)
- 現地研修会の開催(3回)
- 出荷基準に対応した葉色診断技術の設定

技術指導チーム活動内容

- ①生産体制の整備 ②栽培技術指導方針の決定
- ③栽培技術対策の検討 ④栽培技術指導 ⑤乾燥調製処理 など

香川県米生産振興大会 2011/3/25

栽培のポイント: 気象や生育の状況に対応したタイムリー
な指導情報の提供(計4回:平成21年)

「さがびより/佐賀日和」栽培のポイント
~1等米、550kg/10aを目指して~ Ver.2

「さがびより」生産体制技術指導チーム

②穂肥診断と適期防除の徹底

1. 萎わらすき込み田では、根の活力を高めるため、
田植え後25日目の落水を実施し、その後は水深1
~2cmの浅水管理を徹底。
2. 中干しは、田植え後35日目を目途に実施。
(軽く足跡のつく程度)
3. 中干し後は、間断かん水(2日灌水3日落水程度)
の実施。
4. 穂肥は、必ず幼穂5mmを確認してから10a当たり
窒素成分で2kgが目安。
5. 葉いもちを見つけたら、随機防除を徹底
6. ウンカ、コブノメイガ、カメムシ類、紋枯病は、発生
状況を見極め、適期防除の徹底

目標とする草姿
中干し時
草丈50~55cm、茎数は株あたり28本以下、
群落葉色は3.5以下
幼穂形成期
草丈70~75cm、茎数は株あたり30本以下、
群落葉色は3.0

「さがびより/佐賀日和」栽培のポイント
~1等米、550kg/10aを目指して~ Ver.4

「さがびより」生産体制技術指導チーム

④適期刈取に向けて

1. 落水は出穂後35日、刈取1週間前を目安とする。
2. 刈取は出穂後40~45日で、刈取開始の目安は、
穂の8割、穂軸の2/3が黄化したとき(穂先から
5cm程度の穂軸が枯れているとき)である。
3. 穂の水分が低下しやすいので、穂元の二次枝穂に
青穂が多くても、適期刈取に心がける。
4. 「さがびより」の評価をより高めるため、倒伏をして
いたり、著しく葉色の濃い圃場については、別荷受
を実施する。
5. 10月はまだ気温が高いので、変色米防止のため、
収穫後は4時間以内に乾燥施設に搬入する。

別荷受の基準
出穂30日後.....葉色計SPAD 31以上
出穂35日後.....葉色計SPAD 29以上
出穂40日後(成熟期).....葉色計SPAD 27以上

香川県米生産振興大会 2011/3/25

中干しの時期です

田植えから約1ヶ月が経過し、稲の生育は順調に進んでいます。しかし、この時期は日照不足による中干しのリスクが高まります。水管理に十分注意し、稲の生育を促すことが重要です。

また、この時期は雑草の発生も多いため、除草作業も丁寧に行ってください。

毎日の田仕事わりを

毎日の田仕事わりをしっかりと行い、稲の生育を促すことが重要です。特に、この時期は日照不足による中干しのリスクが高まります。水管理に十分注意し、稲の生育を促すことが重要です。


また、この時期は雑草の発生も多いため、除草作業も丁寧に行ってください。

新聞紙面を活用した栽培のポイントの周知(さがびより 通信:計5回)

佐賀新聞
 上段:平成21年7月23日付け
 下段:平成21年8月27日付け

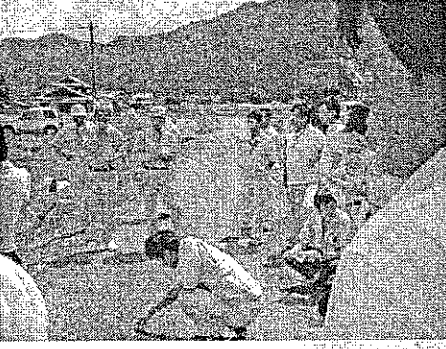
香川県米生産振興大会 2011/3/25

現地研修会の開催(3時期*主要5地区)



- 1) 初期生育の確認、水管理の徹底等 (7/9, 14, 15)
- 2) 穂肥診断(8/4~6)
- 3) 適期刈り取り(10/6)

の3時期で実施



香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(11)
共乾連絡協議会による出荷基準の設定(品質保証)

設立の目的(設置要綱より抜粋、平成20年4月設立、事務局JAさが)
本県の特徴である共同乾燥調製施設を核として、その機能を最大限に生かした生産から集荷販売体制を強化するため、「JAグループ佐賀共同乾燥調製(貯蔵)施設連絡協議会」を設立する。

協議事項

- ・米・麦・大豆の生産、集荷に関する事
- ・米・麦・大豆の品質向上、品質管理に関する事
- ・品質事故防止に関する事
- ・利用率確保、向上に関する事
- ・管理者(オペレーター)等の研修に関する事



生産者自らが、守るべき出荷基準を設定

平成21年産(導入初年目)における取り組み(12)
出荷基準の設定(品質保証)

さがびよりの県下統一出荷調製基準

項目	基準	適用
1等比率	100%	
整粒歩合	70%以上	
玄米水分	15%以下	許容範囲:14.5~15.0%. 過乾燥厳禁
タンパク含量	6.8%以下	
調製網目	1.9mm以上	

県産米としては初

平成21年度(導入初年目)における取り組み(13)
出荷基準(タンパク質含有率6.8%以下)をクリア
するための葉色診断基準の設定

さがびよりの登熟期の葉色診断基準



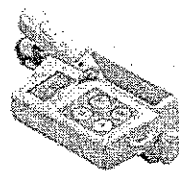
正常SPAD値 からみた診断	測定時期(出穂後日数)				
	5日 (穂揃期)	20日	30日	35日	40日~ (成熟期)
明らかな過剰域	37<	34<	31<	29<	27<
許容域	34~36	31~33	28~30	25~28	22~26
安全域	34>	31>	28>	25>	22>
極良食味域	32.5>	29>	25>	22>	19>

作付圃場全筆を調査し、『明らかな過剰域』にある圃場の
生産物は、タンパク質含有率6.8%を超える可能性が高い
ため、別荷受けの対象に

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(14)
出荷基準(品質保証)を満たすための葉色診断

収穫前の葉色診断風景



診断後の室内検討



4,590筆を
1筆ずつ測定

香川県米生産振興大会 2011/3/25



出荷基準をクリアした
米のみが米袋を使用

- ・1等米100%
- ・タンパク質含有率6.8%以下
- ・調製網目1.9mm
- ・中身がはっきり確認できる

さがびより米袋(ほぼ透明) → 品質保証の証

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(15)
21年産さがびより重点地区における収量・品質

収量(濃密指導地区平均)

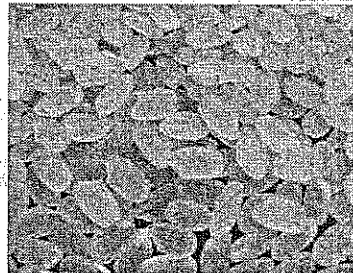
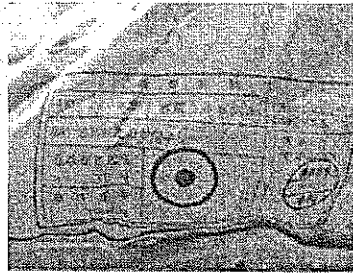
:567kg/10a

* 荷受け重量からの試算値

1等米比率(県全体)

:92.7%

目標とした
『1等米で、収量
550kg/10a』
をほぼ達成

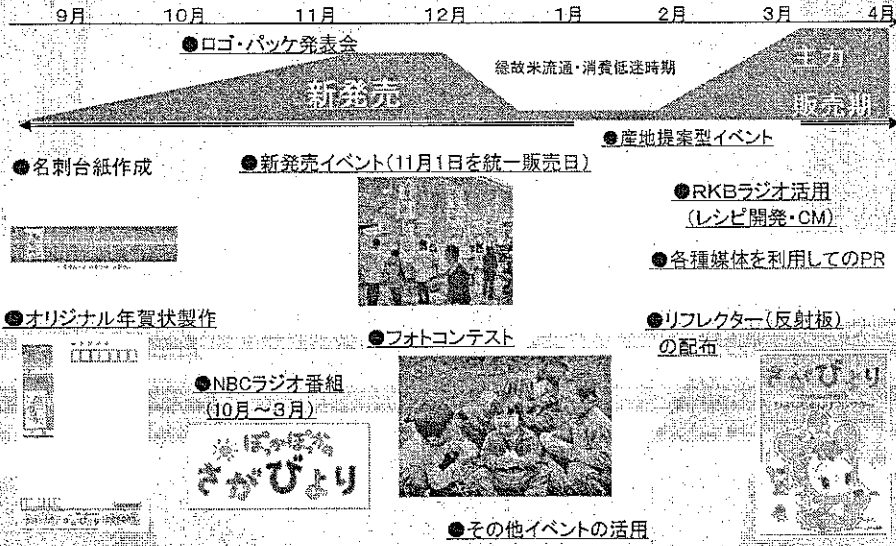


香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成21年産(導入初年目)における取り組み(16)販売対策①

■PR活動コンセプト '県民参加型' & '知名醸成'

- ・県民への身近さ、県民が参加できる取組であること
- ・一極集中型ではなく、じわりじわり徐々に盛り上がりを見せる取組であること
- ・'知名醸成'のために、広がりを持てる取組であること

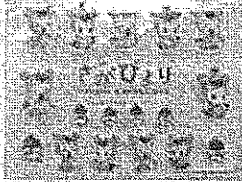


■広告・販促アイテム

- ・のぼり: 1800*600
- ・ポスター: サイズB2
- ・ポスター: ラウンドシート(イメージポスター) 2400*1200
- ・ステッカー 直径11cm
- ・店頭ボード: 450*900
- ・パンフレットリーフレット: A4二つ折り
- ・法被

香川県米生産振興大会 2011/3/25

●ひよりちゃん＆ちゅんくんグッズ



●デコシール

- ・イベント会場ブース等での配布
- ・子供を通じて、主婦・祖父母(ターゲット層)への広がり
- ・持ち物(文具、携帯、バック等)への貼付→知名・話題づくり
- ・営業活動での利用も可能(かさばらない)



●ひよりちゃんリフレクター(反射板)

- ・県内新1年生への贈呈
- ・交通安全への寄与、食育、社会貢献、知名・話題づくり
- ・ランドセル効果→祖父母への意識づけ
- ・新1年生保護者でも利用可能(携帯ストラップ等)

※リフレクターとは・・・

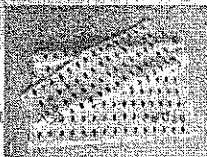
・「反射板」照らされた光がそのまま反射することで、
 ドライバーは、330M先から歩行者確認が可能。(北欧諸国では、人口の約20%が着用)
 ※北欧諸国交通局調査

・EX: イギリスでは・・・

2001年から毎年新1年生にリフレクターを配布。
 2008年の調査結果では、子供の死亡事故及び事故件数は、2001年と比べて51%減。



香川県米生産



●「さがびより」オリジナルネックストラップ&手ぬぐい

- ・「さがびより」パッケージ米粒ラインの利用
- ・卸、販売店向け営業活動グッズ
- ・使用してもらい周知ツールとして活用
- ・H22.3「さがのうまいキャンペーン」Wチャンスとしての利用

2011/3/25

平成22年産(導入2年目)における取り組み(1)
 作付2年目の課題

作付面積: 1,520ha(H21)→ 4,360ha(H22)
 圃場筆数: 4,590筆(H21)→22,000筆(H22)

大幅な作付拡大となる中で、指導内容を
 全ての生産者にいかに伝え、徹底してい
 くか。

限られた人員(普及指導員)で、全てを
 みるのは困難。

平成22年産(導入2年目)における取り組み(2)
JAさがによる指導体制の強化

①条件整備

- ・作付圃場に一般標柱
- ・共乾ごとに基準田の設置
(基準田標柱)
- ・穂肥診断旗や適期刈取旗
- ・生育診断スケール

さかの米・麦・大豆
競争力強化対策事業
(H21～)による経費
の助成(1/2以内)

②指導体制の整備

- ・地域の「技術指導チーム」を継続(県流通課を加えて)
- ・JAさがに「さがびより」専門の技術指導員14名
- ・JAさがによる「さがびより米スター」32名の認定

香川県米生産振興大会

2011/3/25

平成22年産(導入2年目)における取り組み(3)
JAさがによる指導体制の強化

「さがびより米スター」(22年度32名)

21年度に、濃密指導共乾において「さがびより」を作付けし、他の生産者に県の栽培指針を遵守してアドバイスができる卓越した栽培技術を有する生産者として、JAグループ佐賀の認定を受けた方

香川県米生産振興大会 2011/3/25

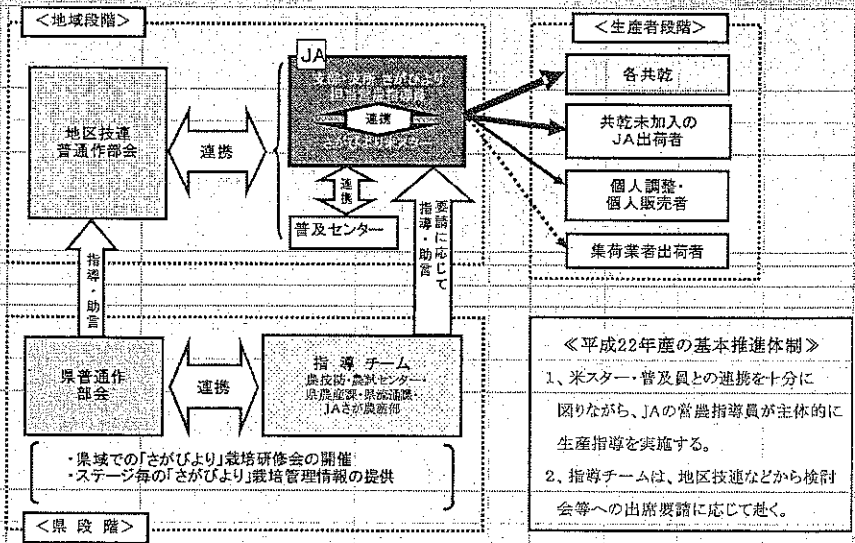
「さがびより」米スター発足式



「さがびより米スター」(32名)には、自らの共乾エリアを中心として、県の普及指導員やJAさかの「さがびより」担当の技術指導員と連携して、他の生産者にアドバイスをしていた。

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成22年産(導入2年目)における取り組み(4) 指導体制の整備(さがびより米スターと連携した指導)



香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成22年産（導入2年目）における取り組み（5）
技術指導チームによる地域と連携した指導の徹底

- さがびより栽培のポイントの発信（計18回）
（よりこまめに）
- 新聞紙面を活用した栽培のポイントの周知
（さがびより通信：計4回）
- 県域の研修会の開催
- 各産地における現地研修会での指導・助言
（地域からの要請に応じて）
- 出荷基準に対応した葉色診断（前年同様）

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成22年産（導入2年目）における取り組み（6）
技術指導チームによる県域の研修会の開催



農業大学校において、現場より約3週間早い田植え（5/27）を行い、指導用圃場として活用。

「さがびより米スター」やさがびより専門のJAさが技術指導員も参加の下、主要な時期に3回開催



香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成22年産（導入2年目）における取り組み（7）
生育診断スケールを活用した技術指導

さがびより育成に新兵器

診断スケール製作



技術指導チーム

このスケールは、
生育診断スケール
として活用し
ています。

理想的な育ちや収穫の基準
となる実態などを記載した
スケール

田植え～収穫までの
技術指導ポイントを
記載。



香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成22年産（導入2年目）における取り組み（8）
22年産さがびよりの収量・品質

10a当たり収量：509kg

* 共乾作付け分の荷受け重量
からの試算値

1等米比率：79.9%

* 農水省公表値（1月末現在）
* ヒノヒカリは12.6%（同）

猛暑の中でも収量・品質の低下は小さく、
「高温に強い」品種特性を発揮

香川県米生産振興大会 2011/3/25

10年産米 全国食味ランキングで『特A』評価獲得

県産米としては、初となる『特A』評価

生産面では、猛暑の中での達成に大きな意義があると同時に、販売面での追い風に期待。



香川県米生産者大会 2011/3/25

平成22年産(導入2年目)における取り組み(9) 販売対策

■PR活動コンセプト '県外へ新登場' & '県内シェアアップ'

・県内は継続的な活動+県外(特に福岡都市圏等)への販路拡大

11月 12月 1月 2月 3月 4月

縁故米流通・消費低迷時期

新米新登場

主力販売期

●TVCM(1025-1224)



●RKBラジオ (1019-1214, 0125-0315)※
(レシピ開発、CM)

●特A訴求資料の製作



●オープンキャンペーン(1030-1231)



●クローズドキャンペーン (1101-1215, 0201-0315)※
※画の雇用事業活用

●その他イベントの活用

●媒体を活用した広告

- * 昨年からの継続事業
- ・NBCラジオオリジナル番組(4月~9月)
- ・オリジナル年賀状製作
- ・新1年生へのリフレクター贈呈

2011/3/25

平成23年産（導入3年目）に向けた課題
生産対策

- 基本的な指導体制は、22年産に同じ
（「さがびより米スター」は増員の計画）
- 更なる高品質安定生産による地域間の
収量・品質におけるバラツキの解消
- 栽培技術等の資質向上による指導員の
指導力向上
- 米の食味ランキングによる継続的な
『特A』の獲得を目指す。

香川県米生産振興大会 2011/3/25

平成23年産（導入3年目）に向けた課題
販売対策

- 県外（特に福岡都市圏）に向けての継続的な情報発信
・TVCMの実施
- “高品質訴求”
・消費者への“期待と安心”を保証
- 「特A」評価の追い風にのった販売対策
- 300g(2合)サイズのサンプル米の配布
・料理研究家による炊き方の情報貼付

“鮮度ある情報” “継続的な情報発信”
コミュニケーション活動で情報の定着！

香川県米生産振興大会 2011/3/25



実るほど、頭を垂れる「さがびより」

「晴れの日」の収穫を
もたらしてくれた全てのものに感謝して。

香川県米生産振興大会 2011/3/25

